

No. 1314

春の訪れ

— 愛知・伊良湖 —

愛知県伊良湖岬。ここはもう春。風は春風、行きかう船は春がすみのなか。暖やかな陽ざしを受けて人々が浜辺にあそぶ。一面に白く続くビニールハウスの中は春まっさかり。とりどりの花が咲き乱れている。花は今が出荷のシーズン、人々は摘み取りに忙しい。若者たちはあわてもの、サーフィンに熱中する。パイプラインに追われて若者たちは滑走する。岬にはひと足早い春が訪れた。

養護学校

義務制スタート

昭和54年4月1日から、養護学校の義務制が実施されることになり、我が国の義務教育制度は一応形の上で完成した。千葉県市川市にある「八幡学園」。昭和3年、都内の貧困家庭の障害児を預るため、自宅を開放して作った全国でも8番目に古い精薄児収容施設。天才画家山下清さんも、この園で過ごし、ここを拠点に放浪生活を送っていた。今この園には5才から23才までの男子78人が収容されていて、このうち義務教育制にいう学齢対象者が45人もいる。が、千葉県に住民登録をしているものの、全員が東京都出身という特殊事情があり、東京・千葉両方の養護学校から門戸を閉ざされている。長年、児童の生活を見てきた学園の渡辺さんは「お互いに縄張り争いをやめて、話し合ってほしい」となげく。都教委は「園側とも話し合ってきたが、制度だけでは解決しない」。養護学校の義務制、それは長い間の懸案事項。ちえ遅れや身の不自由な子供たちにとっては明治5年に学制がしかれて以来108年目の新学期だ。行政の谷間に沈む障害児施設の子供たち。いつになったら彼らに入学案内状が届くのだろうか。